つぎなにプリント48

ぼくは、休み時間になると、一人ぼっちになる。
だって、だれもぼくとあそんでくれないから。
ぼくは、一人で本をひらく。
本を読んでいるふりをしながら、まわりの声に耳をかたむける。
楽しそうな声がぼくにはうるさい。
本の文字をにらむぼく。
すると、だれかがぼくの本をとりあげた。
—な、何をするんだ！
「ねえ、いっしょにあそぼう。」
えがおでそう言われた。
ぼくは、顔を赤くして、うなずきながらこう言った。